

2017年6月1日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	鈴木 彰
受入学部・研究科・研究所		日本学研究所
招へい 研究員	所属・職	Professor, Japanese Language and Literature Department, Hankuk University of Foreign Studies 協定の有無：学部 所在国：韓国
	氏名	Myung jae Moon
招へい期間		2017年5月1日～2017年5月31日（31日間）
研究経費		542,960円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年5月1日	来日
2017年5月5日	セミナー テーマ「韓日説話文学に現れた孝の意識」 18時30分～20時 ロイドホール L708 参加者：学生・院生 計8名
2017年5月9日	研究会 発表題目「『今昔物語集』における阿育王塔談の意味」 18時30分～20時 ロイドホール第3会議室 参加者：教員・学生・院生 計8名
2017年5月18日	講演会 題目「韓・日文献説話の比較考察」 18時30分～20時 6号館 6205教室 参加者：学生・院生・教職員 10名

2017年5月23日	セミナー テーマ「日本語の慣用表現と日本文化の教育」 18時30分～20時 7号館7203教室・ロイドホールL708 参加者：学生・院生 計8名
2017年5月31日	離日

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

文明載教授が在職している韓国外国語大学校と、本学文学部とは協定関係にあり、同大学校と本学文学部文学科日本文学専修及び日本学研究所は、これまでさまざまな研究交流を行ってきた。今回、文教授を招聘し、さまざまなプログラムを実施するとともに、日常的に意見交換を続けることで、そうした関係をさらに発展させる道がひらかれることとなった。

下記のセミナー、講演会、研究会には、本学の教員・学生・院生が参加し、貴重なお話をお聞きすることができたことに加えて、文教授のお人柄もあって、参加した一人一人に対して非常にいいお返事をいただいていた。参加者個々の問題意識の錬磨や、学習・研究への意欲を刺激するよい機会になった。

提携関係についての成果としては、2007年以来継続している韓国外国語大学校と立教大学日本学研究所や文学部との交流関係を、さらに展開していくための具体案を話し合うための恰好の機会となった。今後も、本制度を利用するなどして、同大学校から優れた研究者の招へいが可能となるよう、調整と努力を続けたい。また、同大学校から日本に留学を希望している院生の受け入れの道を、本学においてひらくことが今後の大きな課題となることを痛感した。

なお、韓国外国語大学校との新たな交流の一步として、受け入れ教員であった鈴木彰が、急遽、6月9日～11日の日程で、招待講演の機会を与えていただくこととなったことも付記しておく。

以下、期間中に開催したプログラムについて、簡潔に状況と成果について報告する。

(1) セミナー

テーマ「韓日説話文学に現れた孝の意識」

2017年5月5日（金）18時30分～20時 ロイドホールL708

参加者：学生・院生 計8名

文教授の長年のテーマである「説話にあらわれた孝意識」という問題について、さまざまな事例をもとに具体的にお話しいただいた。日韓両国における孝意識の類似と相違についての議論を踏まえ、関連する諸問題についての理解を深めることができた。

(2) 研究会

発表題目「『今昔物語集』における阿育王塔談の意味」

2017年5月9日（火）18時30分～20時 ロイドホール第3会議室

参加者：教員・学生・院生 計8名

『今昔物語集』という日本を代表する説話集を取りあげ、そこにあらわれる阿育王塔に関

する説話を、東アジアの文化交流という視座から読み解くという内容の報告であった。日本の説話を東アジア文学という視座から解釈することの可能性と意義について、参加者の理解を深めることができた。

(3) 講演会

題目「韓・日文献説話の比較考察」

2017年5月18日(火) 18時30分～20時 6号館 6205教室

参加者：学生・院生・教職員 10名

韓国と日本の比較説話の意義について、口頭伝承としての説話と文献に記された説話の違いや両国の研究史の違いなどを踏まえて、ていねいに論じる内容であった。当日の討論では、とくに孝の問題を中心として意見交換がなされたが、神仏との向き合い方や忠義の問題など、話題は多方面に及んだ。中国からの留学生も議論に加わり、幅のある意見交換をし、相互理解を深めるきっかけとすることができた。

(4) セミナー

テーマ「日本語の慣用表現と日本文化の教育」

2017年5月23日(火) 18時30分～20時 7号館 7203教室(開始時間をすぎたあとでロイドホール L708に移動) 参加者：学生・院生 計8名

文教授の近年のテーマのひとつである、文学・語学教育を通して文化理解を深めるということについて、実践例を踏まえた報告がなされた。古典文学への関心を抱かせ、過去の文化的財産に対する理解を深めるための教育を模索しているのは、日本もまた同様であり、そうした面についてさまざまな意見交換をすることができた。今後の教育実践にも応用していくことが期待される。

以上